

兵庫県保険医協会 神戸支部 今後の企画予定

院内感染対策研修会

- 日 時 10月21日(土) 14時30分～16時30分
- 会 場 兵庫県保険医協会第1・2会議室
- 講 師 済生会兵庫県病院 感染管理認定看護師

小川 麻由美氏

- 参加費 1人 1000円

※医療安全管理研修会の一環のため、受講者には受講証を発行

職員接遇研修会

- 日 時 11月18日(土) 14時30分～16時30分
- 会 場 兵庫県保険医協会第1・2会議室
- 講 師 大手前短期大学 教授

水原 道子先生

- 参加費 1人 1000円

※医療安全管理研修会の一環のため、受講者には受講証を発行

第38回神戸支部総会

記念講演

患者さんの元気をひきだす接し方について(仮)



- 日時 11月26日(日) 14時～(仮)
- 会場 協会5階会議室
- 講師 神戸松蔭女子学院大学
人間科学部心理学科教授

坂本真佐哉先生

それぞれの企画の詳細は、後日FAXや本ニュースにてお知らせいたします。

お問い合わせは、TEL078-393-1809 神戸支部担当：前川まで

兵庫県保険医協会

304号 2017年8月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

「高齢者の精神疾患の対応について」研究会 感想文

身体疾患の探索が不可欠



精神科救急の立場から新生病院の

宮軒院長が講演



会場から活発な質疑がされた

神戸支部は7月22日、協会会議室で研究会「高齢者の精神疾患の対応について」を開催。新生病院の宮軒将院長を講師に、50人が参加した。戸根幸太郎先生の感想を紹介する。

3月に道路交通法が改正され、認知症を持つ人の運転について議論を呼んでいるが、それはわが国の超高齢化社会の問題の一端にすぎない。ご講演くださった宮軒将先生は、精神科救急の立場から具体的な疫学データで、高齢者の自殺がいまや全自殺のかなりの部分を占めることを示された。以下、小生の思いと記憶違いが混じる可能性をご承知いただきたい。

小生が衝撃を受けたことは、高齢者の抑うつにも、激しい自傷を伴う自殺企図が少なくない

ということだ。なんとなく高齢者には大うつ病は少なく、アパシー(無気力、無感動)が多いのではと考えていたが誤解であった。

振り返れば、内科診療においても希死念慮までは訴えないが、不安や心気症的、被害妄想的な人にはたまに遭遇していたので、抑うつ状態として適切に対処すべきだったのではと思う。

「65歳以上の高齢者の1・8%に大うつ病、

(2面へ続く)

（1面の続き）

9・8％に小うつ病、13・5％に臨床的に明らかかな抑うつ状態が認められる」という報告がある1)。

治療では、重度の抑うつには抗うつ薬は不適切で、先に抗精神病薬の開始が必要な場合があるという。さらに薬物療法では間に合わず、電気痙攣療法が選択されることもあるという。専門外の小生が自分で薬物療法を行うことはないが、患者さんがあるべき方向に誘導してあげるのに、貴重な情報を伺ったと思う。

今回、気分障害だけでなく、認知症、せん妄についても実際的なお話が聞けた。強調されていたのは、高齢者の認知機能・意識の変動には、身体疾患の検索が不可欠であること。高度救急医療の経験をお持ちの宮軒先生ならではのご指

摘と思う。小生も日ごろ「治る認知症」を見逃さないよう心がけているつもりだが、ともすれば支援開始のために認知症の診断を急がせる面がある（と小生が思っている）今の社会保障制度のあり方にたいし、重要な視点だと思う。

さいごに、退院への準備に関して。支援を拒否する高齢者もいるそうだが、入院というイベントを通じてできるだけ「人にかかわってもらってよかった」と感じてもらえれば、と話され、宮軒先生の包容力と人間観察の深さを見た思いがする。先生の今後のさらなるご活躍を心より祈念する。

- 1) 参考文献 井藤佳恵・栗田主一(2012)・1・高齢者の気分障害 日本老年医学会雑誌 49, 534-540.

【須磨区 戸根幸太郎】

子ども医療費無料制度の拡充を求める署名にご協力ください

「子どもをお金の心配なく医療機関に連れていける」というのは切実な要求です。

神戸市では、この4年間に1回あたりの負担上限が500円から400円になり、所得制限が撤廃されるなど、徐々に助成が拡充されているものの、無料化は2歳以下にとどまっています。久元喜造市長は、当選時の公約で中学卒業まで「医療費をゼロにします」と約束していました。この公約実現が求められています。

そこで、当会も加入する神戸・市民要求を実現する会は、中学卒業まで医療費を無料化することを求め、当支部としても、この運動に参加することを幹事会で決定いたしました。

子どもの医療費無料制度の拡充を求める、神戸市長への署名にぜひともご協力お願いいたします。なお、日程は9月末までを第1次締切としています。期限までにお取り組みいただければ幸いです。

お問い合わせは、神戸支部担当事務局 TEL078-393-1809 前川・小西まで



現在取り組んでいる署名

国民平和行進 感想文

核兵器廃絶まで声をあげ続けたい



神戸市役所前で。（左から）桃原久枝先生、武村義人副支部長、松岡泰夫評議員

国民平和行進で灘区内を行進したろっこう医療生活協同組合スタッフら参加者

8月4～9日に広島・長崎で開催された「原水爆禁止世界大会」をめざし、核兵器のない世界への転換を訴え、日本全国の市町村をアピールして歩く「国民平和行進」が、7月4日から16日にかけて、兵庫県内を行進した。神戸支部の武村義人副支部長、松岡泰夫評議員、桃原久枝先生が参加した他、ろっこう医療生活協同組合スタッフが初めて参加した。ろっこう医療生活協同組合の市川英恵氏の感想を紹介する。

「生きていて良かった」7月9日芦屋市役所から出発する前に、被爆者の方がおっしゃった言葉が忘れられません。国連で核兵器禁止条約が採択されたことについてです。しかし日本はこの交渉に不参加。核兵器も原発も、日本が「なくそう」と世界を牽引していくべき立場なのに……と思いながら歩き始めました。

私は昨年訪れた祝島（山口県上関町）で買った「原水絶対反対」と書かれたハチマキを身に着けて、9日と10日平和行進に参加しました。祝島の皆さんは35年前からデモ行進を始め、上関原発の建設を阻止しています。もちろん行進

の他にもたくさんの方の努力をされていますが、個人的には主張を掲げて行進することはとても大切だと思っています。団結して取り組めるし、通りすがりの人々に疑問を投げかけることもできます。私の場合は、行進中は改めて平和について考える時間となりました。

平和行進に参加されていた多くの方と、世界から核兵器がなくなるまで一緒に声をあげ続けたいです。

【ろっこう医療生活協同組合

組合員活動支援部 市川 英恵】